

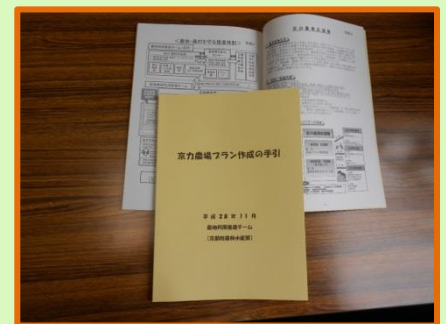
平成 28 年度農地中間管理事業の手続き終盤へ

本年度から農地中間管理事業の取組みによって交付される機構集積協力金の交付要件が、「12月末までに機構から受け手に貸し付けられていること」とされ、事務手続きを昨年度より3ヶ月前倒しすることが必要となりました。機構では、市町村によってとりまとめされた配分計画案などの必要書類を審査の上、京都府あての申請を終えました。京都府では、12月中に公告をすべく事務が進められています。

なお、機構集積協力金の対象となっていない地域の農地中間管理事業については、今年度分は29年3月まで実施しております。

京力農場プラン作成の手引（改訂版）が発行されました

地域・人・農地の課題を解決するための話し合いによる集落の将来設計図“京力農場プラン”。その作成手順などを詳しく解説した手引が改訂・発行されました。改訂版では、農地中間管理事業との協働体制や関連の深い補助事業、先進地域の特徴的な取組事例、農業委員の活躍記事などプランにまつわる事業や取組みが幅広く紹介されています。発行に当たった府経営支援・担い手育成課では、「市町村の担当者や農業委員・農地利用最適化推進委員の皆さんが集落においてプラン作成の話し合いをリードしていただく際に必ず役立つものと期待しています。」とのことです。FarmBankNews 4月号でご紹介しましたように、昨年度の農地中間管理事業を活用して集積された農地面積の実に 97.4%が京力農場プランが作成されている集落で実現しています。当機構としても、今まで以上に集落の話し合いに参加し、各種の事業と連携した農地集積の取組みを提案するなど手引を有効活用し、農業・農村を守る取組みを進めます。



(改訂・発行された手引)

農地中間管理事業・京力農場プラン作成の推進をPR

～ブロック別農業委員・農地利用最適化推進委員研修会～

京都府農業会議では、改正農業委員会法を受けた農地利用最適化推進業務について、農業委員・最適化推進委員や市町村職員が具体的な業務のイメージを描いていただく一助となることを目的に、府内5会場でブロック研修会を開催しました。機構では、この機会に農業委員や農地利用最適化推進委員とこれまで以上に連携・協働して農地中間管理事業を進めたいことを訴えるとともに、集落の農地を守っていくための話し合いのとりまとめである京力農場プランの作成について、その必要性をお話ししました。一つでも多くの地域で話し合いがもたれ、農地の集積・集約化が進むことにより農業・農村が維持できるよう今後もこういった機会を捉えて農地中間管理事業をPRしていきます。



(川崎次長が各ブロック研修会で情報提供)

☆参入企業の真剣な取り組み紹介⑦☆～阿部農地利用推進員レポート～

- 新たなチャレンジャーが次々名乗り -

シリーズも後半に突入。様々な業種業態の企業が参入する中、昨秋から参入の、株式会社サンパワー(代表取締役 山本 昭彦氏)をご紹介します。水耕とミストによる葉物栽培を木津川の地で着手。高品質・高収穫の追求に拘り、順調に歩み続けている。

「ビジネス商談会にも積極的に参加し、バイヤーからの評価も技術向上の栄養素と捉え、独自の ICT 遠隔管理とマンパワーで



青々と育った葉物野菜(ハウス内部)

収穫率100%を目指す」と、取締役の大成 智之氏は力強く語り、今後は他地域にも参入を計画中で、「その地域に適した営農形態の構築を実現したい」とニコリ！

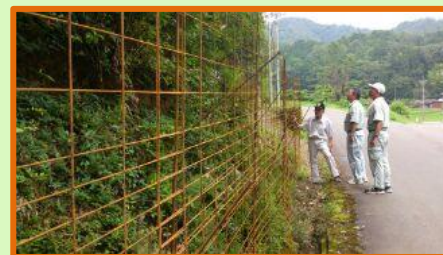
農地借受は農地中間管理事業を積極的に活用する意向を持つ。近年の参入企業の特徴の一つとして、入念に事前調査・研究を経て参入に至るケースが目立つ。(株)サンパワーもその一つに数えられ、地域貢献も含め企業側の真剣度がうかがえる。



(地元の協力を得ながらの栽培作業)

☆地域集積協力金を活用した事例紹介⑥☆～綾部市志賀郷地区～

農地中間管理事業により地域の農地面積の2割以上を集積した場合は、地域集積協力金が地域に交付されます。この交付金を使って地域の農業振興のために有効活用された事例をご紹介します。今回ご紹介する志賀郷地区は、綾部市中心部から北方約10kmにあります。同地区では、地域内の農地面積約76haのうち、39haを農地中間管理事業を活用して担い手に集積し、地域集積協力金の交付を受けました。地域の中核的な担い手の一つが金河内・坊口・内久井の3集落が地域の農地を守ることを目的に設立した志賀郷北部農産株式会社です。役員の方々が、「好条件の農地は個人の担い手に、条件不利地や山際の農地は法人が引き受けることによって、地域全体で農地を守っていくことにしている。」とのこと。また、女性グループに小豆を生産してもらうなど住民が活躍できる仕組みをつくり、多様な方が参加して農地を守る工夫をされています。地域の小豆は、品質の高さから京都の和菓子屋さんと取引され、また東京の菓子専門学校の生徒20名ほどが毎年収穫体験に来るなど地域の活性化にも繋がっています。さて協力金ですが、8割方が獣害防止柵の設置に費やされたとのこと。常は空き家状態の家屋の周囲も地域外に転出された所有者に連絡し、隙間なく設置するのに苦労したとお聞きしました。「プランの作成や法人設立などここまで来るのに皆で何度話し合いを持ったか知れない。」とのことが印象的でした。リーダーの存在と集落の皆さんが参加した話し合いが農業農村を守るためにいかに重要であるか改めて感じました。



(シカが飛び越えないよう2段で設置した柵)

✿ イベントガイド ✿

開催日	催事名	会場	お問い合わせ
1月10日(火)	農地農政相談	福知山市内複数会場	福知山市農業委員会事務局
1月19日(木)	山城地域就農相談日	府田辺総合庁舎	山城北農業改良普及センター 山城南農業改良普及センター
	◆ある程度の就農準備ができている方を相談対象として想定しております。 ◆就農準備がどの程度できているかにより、他の相談機関を紹介する場合がありますので、御了承ください。		

京都府農地中間管理機構では、平成28年4月から「FarmBankNews」を発行し、農地中間管理事業を中心とした様々な情報をお届けします。